

リーディングDXスクール事業【実践事例】

武雄市立武雄中学校（佐賀県）【指定校】

【取組内容】 学習者主体の授業デザインを構築するための「授業構想シート」の作成と実践、共有

【目的】

- ・ 授業者が「自己決定」「能動的な協働」「自己調整」の各場面に必要な支援を具体的にイメージし、準備できるようになること
- ・ 授業の前後で自己点検を行い、新しい授業観に基づく授業になっているかを確認すること
- ・ 作成したシートを校内で共有し、異教科間でも共通の視点をもって授業研究を深められるようにすること

表 授業構想シート例（英語科）

	目指す具体的な学習者の姿	端末・クラウドの活用	学習者・学級の現状、 本時の学習内容をふまえた留意事項
自己決定を促す場面	(a)ループリックを参照し自分自身の目標を決める。 (b)授業を通して個人、ペア、グループなどの学習形式を自己決定する。 (b)目標到達までの手順を自己決定する。 (b)課題解決や学習の手段を自己決定する。	(a)Sceneごとのループリックを参照し進捗確認シートに記入する。 (b)相談する相手やタイミングを知るために進捗確認シートを活用する。 (b)目標到達に向けて、スライドの単元計画、デジタル教科書や文法動画、教師が撮影したお手本動画を活用する。	(a)自身の目標設定時には、ゴールを意識して目標を設定させること、迷う生徒には他者参照を促す。 (b)進捗確認シートを参照して活動の相手やアドバイスをもらう生徒を選択するよう促す。
a 個人のめあて			
b 解決手順・手段			
c その他（ ）			
他者と能動的な協働を促す場面	(g,h,i)他の生徒が考えたALTへの質問を、参考にしたり真似をしたりする。 (h,i,j)授業を通して、自分の進捗状況や考え、解答を進捗確認シートに記入し、情報を共有する。 (i,j,k)活動の前に友達と練習する時間を設ける。	(g,h,i)単元計画に貼り付けている他の生徒のスライドを活用する。 (h,i,j)スプレッドシートで作った進捗確認シートを活用する。	(h,i,j)生徒のよい学びや方法について紹介したり、間違いに気付くアドバイスをし、生徒が意欲的に学ぶ意識を高めると同時に、遅れている生徒を励ましなが全員でゴールに到達する支援をする。
g 伝達			
h 情報共有			
i 参照・真似			
j 比較・検討			
k 批評			
l その他（ ）			
自己調整を促す場面	(d)授業を通して、動画や他の生徒からのアドバイス、他の生徒のスライドや進捗確認シートなど参照し自己修正を行う。 (e)ゴール到達までの時間配分を行い、学習計画を修正しながら進める。	(d)デジタル教科書や動画、サイト、進捗確認シートを活用する。 (e)進捗確認シート、単元計画を活用する。	(d)進捗確認シートやスライドにおいていつでも他者の解答や意見を参照し、考えの修正を行うようにする。 (e)先渡ししている単元計画をみてゴール到達までの時間や方法を授業や家庭学習などで調整できるようにする。
d 考えの修正・調整			
e 学習計画・方法の修正			
f その他（ ）			

このシートで、学習者の行動や対象を具体的にし、端末・クラウドの活用場面や方法を明確化させ、授業者が学習者の行動を引き出すためにどのように支援するかを具体的にイメージすることをねらった。ただし、自己決定、自己調整、能動的協働の3つの場面は相乗し合うものと考え、時間軸を表すものではない。



指導者が目指す授業の方向性が明確になり、共通した視点で授業を作ることができるようになった。